

2018年 福沢一郎記念館（世田谷） 秋の展覧会

FUKUZAWA × HIRAKAWA 悪のボルテージが上昇するか21世紀

2018年10月18日（木） - 11月17日（土）の水・木・金・土曜日開館 12:00-17:00 観覧料 300円

—— いまを生きる気鋭のアーティストが、人間と社会を描きつづけた巨人に挑む ——

昭和初期から平成へと至る65年の間、つねに人間と社会への鋭いまなざしを持ち、自由闊達に描き続けた画家福沢一郎（1898-1992）は、今年生誕120年を迎えました。彼の作品と言論は、近年多くの研究者によって見直されつつあります。

この巨人に、近年活躍めざましい若手アーティスト平川恒太が挑みます。平川は、戦争画を黒一色で描くことで見えない歴史の痕跡をさぐるシリーズ「Trinitite」の手法を応用し、福沢の晩年の大作《悪のボルテージが上昇するか21世紀》（1986年）を黒一色、原寸大（197×333.3cm）で描きます。現代の我々が直面する困難を20世紀末に予見したかのような問題作を、平川はどう解釈し、我々に提示するのでしょうか。

また、平川は福沢が1965年にニューヨークで撮影した写真にも注目しました。ベトナム戦争前夜、公民権運動が盛り上がるアメリカの大都市で福沢がファインダー越しに捉えた数々のシーンを、平川は「白と黒」で捉え直し、かの詩人・美術評論家の瀧口修造の詩・評論集へのリスペクトを添えて「ニューヨーク・白と黒の断想」として作品化する構想を立てています。

2011年に多摩美術大学で「福沢一郎賞」を受賞した平川が、いま改めて福沢の作品を読み解き、描き、福沢一郎のアトリエ内で展示する。このまたとない展覧会をぜひご覧ください。



参考：福沢一郎《悪のボルテージが上昇するか21世紀》
1986年 アクリル・キャンパス 197×333.3cm
富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館蔵

掴み合い争う裸体群像と踏みしだかれる札束。背後には枯れ木が残るばかりの不毛の地と、摩天楼の下に溢れる群衆。自然破壊と大国の混沌のなかで、人間は悪のボルテージの上昇にまかせている。



参考：平川恒太《Trinitite- Compatriots on Saipan Island Remain Faithful to the End》
2013年 油彩・アクリル・キャンパス
181.0×362.0cm
個人蔵

黒という、描くのも見るのも困難な絵の具を何層にも重ね、失われて行く戦争の記憶を当時の画家の身体感覚や感情などを追体験することで描き出そうとしています。見えない歴史に向き合いながら描き出すその行為は、現代の私たちの歴史との向き合い方によく似ています。タイトルの「Trinitite」とは人類最初の原爆実験の際に生成された人工鉱物に由来しています。（作家公式Webサイトより抜粋）

○福沢一郎 (1898-1992) 略歴

群馬県生まれ

1918年 東京帝国大学入学 (卒業せず)

同年 朝倉文夫彫塑塾に通い彫刻家を志す

1924年 パリに単身留学、次第に絵画制作へ

1931年 第1回独立美術協会展に特別陳列、物議を醸す。以来前衛絵画の旗手として活躍

1941年 治安維持法違反の疑いで逮捕、約半年後に起訴猶予となり釈放

1952-54年 文化自由委員会代表として渡仏、その後中南米へ渡り1年半ほど旅する。帰国後制作した作品が好評を博す

1965年 ニューヨークに3か月ほど滞在し作品を制作、写真も多数撮影する

1970年 ギリシャに旅行、神話に取材した作品を多数制作。以後、神話や聖書、地獄の説話などを題材とした作品を制作するようになる

1978年 文化功労者

1991年 文化勲章受章

○平川恒太 (1987-) 略歴

埼玉県生まれ

2011年 多摩美術大学美術学部絵画学科油画専攻 卒業、福沢一郎賞受賞

2013年 東京藝術大学大学院 絵画専攻 修士課程修了

2014年 VOCA展 2014 (上野の森美術館) 出品

2014-2015年 ドイツに留学 State Academy of Fine Arts, Stuttgart.

2017年 「中村亮一 平川恒太「匿名の肖像」展

2018年 「「1940's フジタ・トリビュート」 (東京藝術大学陳列館) 出品

同年 「カタストロフと美術のちから展」 (森美術館) 参加予定

○出品予定作品

- ・平川恒太《悪のボルテージが上昇するか 22世紀》
油彩、アクリル・キャンバス 197×333.3cm
- ・平川恒太《ニューヨーク・白と黒の断想》
油彩、アクリル・キャンバス サイズ未定
+福沢一郎撮影写真 (1965年) サイズ未定
- ・平川恒太《芸術家たちの対話-私たちはバラなしでは何もできない》2018年 福沢一郎の赤と青 (アクリル)、アクリル・キャンバス 72.7×53.0cm
- ・福沢一郎《STOP WAR》1967年
アクリル・キャンバス 73×91cm
- ・その他 (決定し次第記念館 HPにて告知します)

☆広報用作品画像はメールにてお申し付けください☆



参考：福沢一郎撮影写真 (ニューヨーク、1965年)



平川恒太
《芸術家たちの対話
-私たちはバラなしでは
何もできない》
2018年
福沢一郎の赤と青
(アクリル)、
アクリル・キャンバス
72.7×53.0cm

●展覧会詳細

会 期：2018年10月18日 (木)
～11月17日 (土) 12:00 - 17:00
※開館日は水・木・金・土曜日

会 場：福沢一郎記念館
東京都世田谷区砧 8-14-7

観覧料：300円

催 し：アーティストトーク

「福沢一郎とその作品から読み
解くもの・受け継ぐもの」

10月20日 (土) 15:00-16:00

語り：平川恒太 (出品作家)

佐原しおり (群馬県立館林美術
館学芸員)

進行：伊藤佳之 (当館学芸員)

要申込、定員40名

(観覧料が必要です)

申込はメール、FAXにて受付

メール event@fukuzmuseum.com

FAX 03-3416-1166

交通案内：

小田急線祖師ヶ谷大蔵駅から徒歩5分

同 成城学園前駅から徒歩10分